

女子戦評

大会名 第69回全日本バレーボール高等学校選手権大会 青森県代表決定戦

日時 平成28年11月12日～13日

会場 カクヒログループスタジアム

女子決勝（11月13日）

弘前学院聖愛高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 25 - 20 \\ 25 - 17 \\ 25 - 14 \end{array} \right\}$ 0 青森西高等学校

ファーストレフリース 津嶋 由香
セカンドレフリース 川村 陽平

12年連続14回目の選手権大会出場を目指す弘前学院聖愛高等学校（以下聖愛）と18年ぶり14回目の出場を目指す青森西高等学校（以下青西）の対戦。第1セット序盤は聖愛の多彩な攻撃に対して青西はサイド攻撃でお互い着実に加点していくが、青西のスパイクミスと聖愛の帯川のサービスエースで聖愛10対6となり青西1回目のタイムアウト。その後聖愛はクイックで突き放そうとするが、青西も磯野の硬軟織りまぜた攻撃とサーブで追いつき2点差でのシーソーゲームが中盤は展開される。聖愛のクイックを青西がレシーブでつなぎ磯野が決めるという流れで16対16と青西が同点に追いつき、聖愛1回目のタイムアウト。両チームともディグでリズムを作り加点していくが、聖愛奥田のライト攻撃が要所で決まり聖愛がリードを広げ23対19で青西2回目のタイムアウト。その後も奥田のスパイクが決まり25対20で聖愛が1セット目を先取する。第2セットは序盤聖愛佐々木のサイドと相馬のクイックが決まり1対6で青西1回目のタイムアウト。青西も磯野の攻撃が決まり追いつこうとするが、ミスが出始め点差は広がる。聖愛は相馬と鈴木の高さがあるブロックとスパイクでリードを広げ2対10で青西2回目のタイムアウト。その後も聖愛佐々木がサーブで相手を崩し相馬がクイックで決め連続7点決まり突き放していく。青西も岡本と松尾のスパイクで追いつこうとするが聖愛も奥田のスパイクで着実に加点していく。終盤は聖愛のオフェンスミスから点差は詰まり、青西のセッター森川の運動量を活かしたトスワークと途中交代した金澤の攻撃などで21対16と点差を詰め、聖愛1回目のタイムアウト。その後聖愛は奥田、青西は岡本中心に加点し、最後は佐々木のスパイクが決まり25対17で聖愛が2セット目もとる。第3セット序盤は青西磯野のサイド攻撃とセッター森川のツー攻撃が随所で決まり青西リードでゲームが展開される。青西のミスが出て聖愛が逆転し、11対9となったところで青西1回目のタイムアウト。青西は松尾のクイックと磯野のサイド攻撃で追いつこうとするが、聖愛は相馬と鈴木のスパイクでリードを広げ11対16で青西2回目のタイムアウト。その後も聖愛は鈴木と奥田の多彩なスパイクでリードを広げていく。終盤は聖愛鈴木、磯野のスパイクが随所で決まり、最後はセッター帯川樹のブロックが決まり、25対14で聖愛が12年連続14回目の選手権大会出場を決めた。

戦評者 村元 直記